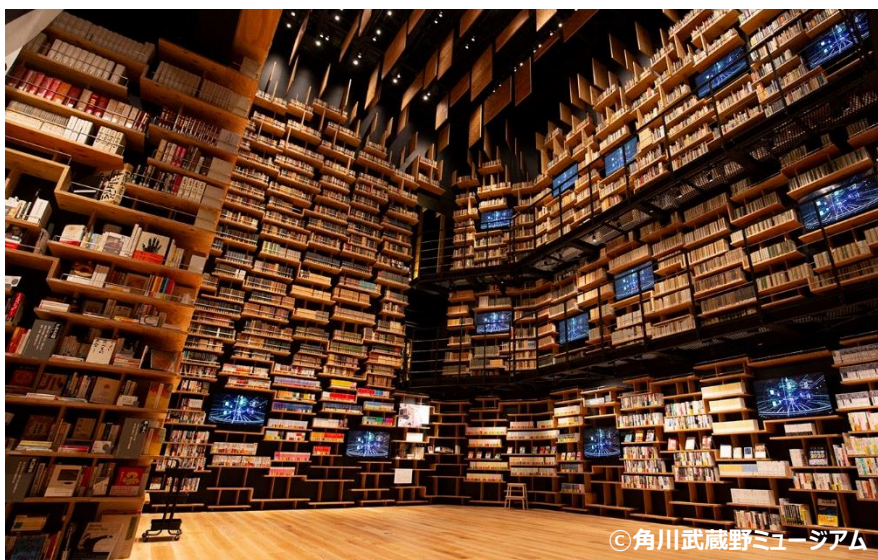


第2期

所沢市まち・ひと・しごと創生総合戦略



©角川武蔵野ミュージアム

所沢市

1. 所沢市まち・ひと・しごと創生総合戦略について	1
(1) 目的	2
(2) 位置づけ	2
(3) 将来的に目指すまちの姿	3
(4) 基本的な考え方	5
2. 重点プロジェクト	7
(1) 「COOL JAPAN FOREST 構想」の推進	8
(2) 「産業用地創出」による産業振興	10
(3) 「所沢駅周辺」の開発とまちの活性化	12
(4) 「水とみどりがつくるネットワーク計画」の推進	14
3. 戦略方針	16
(1) まちの魅力をUP	17
その1 まちの魅力をさらに高める	18
その2 まちの魅力を発信する	19
その3 まちに対して愛着や誇りを持ってもらう	20
(2) 産業の力をUP	21
その1 産業基盤を整備する	22
その2 経営基盤を安定・強化する	23
その3 雇用を創出し、就労支援を充実する	24
(3) みんなの安心をUP	25
その1 子どもの育ちへの支援を充実する	26
その2 子どもが幸せに過ごせる環境をつくる	27
その3 子どもと“みんな”がつながる	28
(4) 暮らしやすさをUP	29
その1 地域の絆づくりを大切にする	30
その2 快適な交通環境を提供する	31
その3 保健医療体制を充実する	32
4. 資料	
第1期所沢市総合戦略計画期間における人口分析	33

1.所沢市 まち・ひと・しごと 創生総合戦略について

- (1) 目的
- (2) 位置づけ
- (3) 将来的に目指すまちの姿
- (4) 基本的な考え方



所沢市イメージマスコット
「トコロん」

(1) 目的

日本全体の問題となっている少子高齢化の流れの中で、各自治体が生産年齢人口*の確保を図ることは共通の大きな課題となっています。

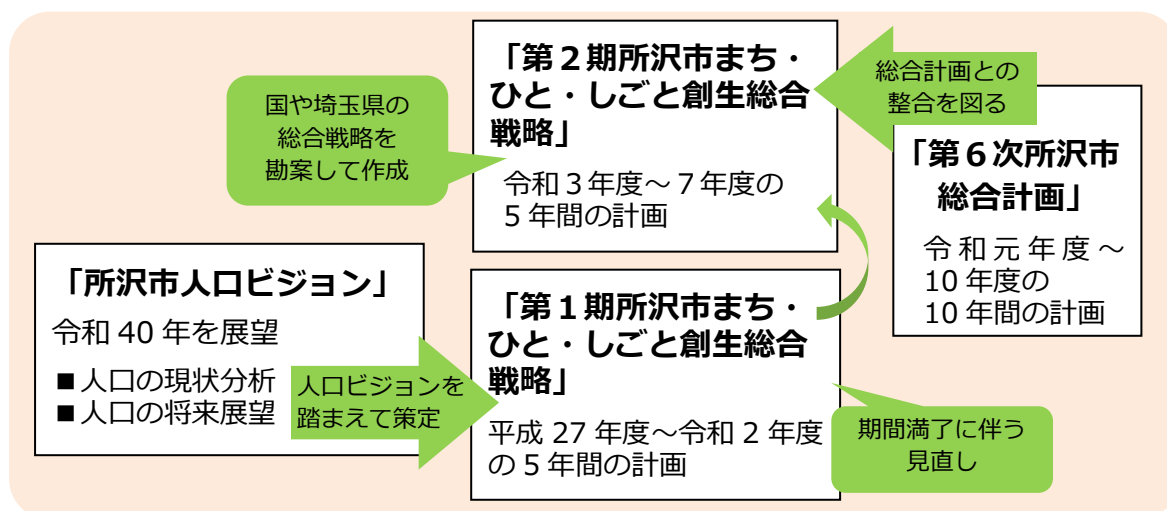
生産年齢人口の確保を促進するためには、自治体を持つ強みと弱みを把握し、強みを有効活用・発信するとともに、弱みを克服できる方策を考えることが重要です。そのためには、自治体が置かれている状況を十分に把握し、状況に合った独自の施策を展開すること、そして自治体を持つそれぞれの個性を明確にすることが必要であり、それを踏まえ、平成27年度から令和2年度を計画期間とした「第1期所沢市まち・ひと・しごと創生総合戦略（以下「第1期所沢市総合戦略」）」を策定し、取組を進めてきました。

令和3年度以降は、国の「第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略」を勘案し、「第6次所沢市総合計画」に掲げる将来都市像「絆、自然、文化 元気あふれる『よきふるさと所沢』」の実現を目指すとともに、引き続き人口の急激な減少の抑制と地方創生に取り組むため、「第2期所沢市まち・ひと・しごと創生総合戦略（以下「第2期所沢市総合戦略」）」を策定し、取組を進めていきます。

(2) 位置づけ

① 「第2期所沢市総合戦略」・「所沢市人口ビジョン」・「第6次所沢市総合計画」との関係性

「第2期所沢市総合戦略」は「第6次所沢市総合計画」との整合性を保つことを前提としたうえで、喫緊の課題である人口問題に対応し、地方創生を推進していくため、「所沢市人口ビジョン」や現状の人口推計等を踏まえ、本市の最上位計画である「第6次所沢市総合計画」や各種個別計画等をより進化させ、さまざまな取組のスピードアップを図るものとして、今後5年間の重点プロジェクト及び「人口の将来展望」実現のための施策の展開についてまとめたものです。



* 生産年齢人口…人口統計で、生産活動の中心となる15歳以上65歳未満の人口。

② 計画期間

令和3年度から令和7年度までの5年間とします。

③「第2期所沢市総合戦略」の進行管理

「第2期所沢市総合戦略」の取組を効果的に推進するため、戦略方針に対する戦略指標を立て、戦略方針に対する基本目標、取組に対する「重要業績評価指標（KPI）*」を設定したうえで、その達成度や計画全体の進み具合についてPDCAサイクルによる進行管理を行います。

戦略の成果に対する継続的な評価・見直しを行うことによって、目標を達成するための課題を明らかにし、その結果を踏まえた効果的・効率的な財源配分や事業選択を行います。

また、「第2期所沢市総合戦略」は、社会情勢の変化などにより必要が生じた場合には、見直しを行います。



(3) 将来的に目指すまちの姿

① 「魅力にあふれ、活力ある経済活動の中で安心して暮らせるまち」を目指します

「第1期所沢市総合戦略」と同様、「第2期所沢市総合戦略」の計画期間（令和3年度から令和7年度）においても、本市が30年後、40年後といった中長期的な将来を目指す姿を前提として、直近の5年間に進める施策を示しています。

「所沢市人口ビジョン」では、本市の「目指すべき将来の方向」として、みどりと文化・にぎわいなどの「魅力」、産業振興・雇用の確保などの「元気」、家族や子どもとの安らぎのある暮らしなどの「安心」の3つの要素を掲げています。

「第2期所沢市総合戦略」においても、「第1期所沢市総合戦略」から引き続きこれらの要素をキーワードとして戦略方針を定め、さらにその中から特に力を注ぐべき重点プロジェクトを設定します。

全国的に人口減少が進む中でも、“交通利便性が高く災害に強い”“豊かなみどり”等の「所沢の強み」や「所沢らしさ」といった地域の特性を活かした元気な経済活動を維持しながら、確実に行政運営を進めることで、市民が安心して暮らせるまちを目指します。

*重要業績評価指標（KPI）…目標の達成度合いを検証するための客観的な指標。

② 「魅力」と「元気」をさらに高め「将来的に目指すまちの姿」の土台づくりを進めます

これまで首都近郊都市として成長してきた本市は、人と人との絆の基盤となるコミュニティ活動が活発であること、公共交通の利便性が高いこと、地質的に武蔵野台地の比較的堅く良好な地盤によって災害に強いことなど、「安心」の要素が優れています。

一方、「魅力」や「元気」については、優れた潜在能力があるものの、都心に近い立地であることから、都内の商業施設や観光地に、その役割の一部を預けてきた面があります。

人口の東京一極集中が止まらず、地方の人口減少が進む中で、本市が「魅力にあふれ、活力ある経済活動の中で安心して暮らせるまち」であり続けるためには、本市の潜在能力を十分に活かし、周辺自治体と連携しながら、広域的な地域としての「魅力」「元気」「安心」がバランスよく作用していく必要があります。

本市では、平成27年度から令和2年度までの6年間を「第1期所沢市総合戦略」として、「安心」につながる取組を確実に実行する中で、本市の「魅力」を磨き、また新たな「魅力」を発見することで、これまで以上に活発な人の流れを生み出すとともに、地域産業の活性化や雇用創出など、「元気」なまちづくりを進めることに重点を置いて、「将来的に目指すまちの姿」を実現するための土台をつくってきました。

「第2期所沢市総合戦略」期間中においても、この土台を強固なものとする取組を継承します。

③ 4つの「戦略方針」と4つの「重点プロジェクト」を設定します

「第1期所沢市総合戦略」では、「魅力」「元気」「安心」のキーワードに基づき、施策を体系的に整理して4つの戦略方針を設定し、その中でも特に重点を置く4つの施策を「重点プロジェクト」として設定し、優先的に実行してきました。

各プロジェクトは順調に進捗しているところであり、本市の魅力・元気の向上に効果を上げているところですが、これをさらに強固なものとするため、「第2期所沢市総合戦略」においても4つの戦略方針及び4つの「重点プロジェクト」を継続し、「魅力にあふれ、活力ある経済活動の中で安心して暮らせるまち」を目指します。

戦略方針

- (1) まちの魅力をUP
- (2) 産業の力をUP
- (3) みんなの安心をUP
- (4) 暮らしやすさをUP

重点プロジェクト

- (1) 「COOL JAPAN FOREST 構想」の推進
- (2) 「産業用地創出」による産業振興
- (3) 「所沢駅周辺」の開発とまちの活性化
- (4) 「水とみどりがつくるネットワーク計画」の推進

(4) 基本的な考え方

① 「第2期所沢市総合戦略」のターゲットとテーマ

「所沢市人口ビジョン」では、有効な対策を講じない場合において、将来的な人口は令和40年には約24万8千人（平成27年人口の約72%）になるとともに、少子高齢化の進展が見込まれており、社会保障を維持しなければ社会基盤が崩壊するおそれがあります。

生産年齢人口に対して、年少人口*と老年人口*の合算が、最低でも1:1の比率となるよう、将来の支えとなる年少人口の回復を図りながら、生産年齢人口世代への負担を過重なものにしないようにしていく必要があります。

人口における年齢構成の改善と急激な減少の抑制を図り、良好な経済活動と市民生活を維持するためには、「魅力」や「元気」などの、本市が持つ潜在能力を最大限に発揮しながら、人々が「安心」して暮らし、子どもたちをはじめ皆が活躍できるまちにしなければなりません。

「第1期所沢市総合戦略」計画期間中では、総人口の減少はみられず、生産年齢人口の割合についても「人口の将来展望」とほぼ同等となっていますが、合計特殊出生率、年少人口、生産年齢人口は減少傾向にあります。

そこで、「第2期所沢市総合戦略」では、主なターゲットは引き続き、子どもや若い世代、子育て世代とし、明るい未来や幸せを感じ、本市で充実した生活が送れるよう、引き続き、まちの活力を引き出すことをテーマとして取組を進めます。

② 「第2期所沢市総合戦略」の基本姿勢

「第2期所沢市総合戦略」は、以下の基本姿勢で取組を進めていきます。

子どもや若い世代、子育て世代にとって魅力的なまちになっていくには、そこに住むだけでなく、働く場所や遊ぶ場所などの多様な機能が備わっている必要があります。所沢で暮らし、働き、結婚を希望する人が結ばれ、子育てし、楽しむことができるよう、「住・職・遊・育」が融合したまちづくりを推進することによって、人々の定住や交流（外から遊びに来る、買い物に来る、働きに来るなど）を促進します。

そのためには、本市がこれまで培ってきた「みどりと文化」の力を最大限に発揮するだけでなく、これまでにない「新しい可能性」の発見に努めることが大切です。

こうした取組を「魅力」「元気」「安心」といったキーワードに整理し、総合的に高めていくことを「第2期所沢市総合戦略」の基本的な姿勢とします。

また、「第2期所沢市総合戦略」の推進にあたっては、所沢市まちごとエコタウン推進計画の基本理念として掲げている“人と人”、“人と自然”との絆で、子どもたちの未来を紡ぐ「エコタウン所沢」の考え方を踏まえ、「未来の子どもたちに残したいまち」へとつながるように、本市の大きな魅力である「絆」や「みどり」を存分に活かし、その魅力をさらに伸ばしていく施策を計画的に実行します。

*年少人口…人口統計で、0歳から14歳までの人口。

*老年人口…人口統計で、65歳以上の人口。

③ 国の動向を踏まえた施策の実行

国の「第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略」においては、地方創生の取組を進める際には、次の考え方について考慮することを掲げています。

【新しい時代の流れを力にする】

- 地域における Society5.0 の推進(未来の技術を活用し、地域課題を解決していく取組)
- 地方創生 SDG s の実現などの持続可能な街づくり

【多様な人材の活用を推進する】

- 多様なひとびとの活躍による地方創生の推進
- 誰もが活躍する地域社会の推進

また、東京圏への一極集中を是正し、地方とのつながりを構築していくため、今までの地方への移住・定着の推進に限らず、地方とのつながりを構築していく「関係人口」の創出・拡大についても新たに掲げています。

「第2期所沢市総合戦略」では、これらの国の動向を踏まえて、各施策の実行に当たっては「最新技術の効果的な活用」「持続可能なまちづくり」「市民の誰もが活躍できる環境の確保」等の視点をもって進めます。

④ 「誰一人取り残さない社会」の実現

第2期所沢市総合戦略は「第6次所沢市総合計画」を上位計画とし、その基本理念や将来都市像、施策に掲げる目標を踏まえています。

この「第6次所沢市総合計画」はSDG s の観点を踏まえて策定しており、17のゴールは本市の事業すべてに関わるとの考え方を示しています。

第2期所沢市総合戦略における重点プロジェクト、戦略方針についてもSDG s の17のゴールやターゲットに関連するものとして、経済・社会・環境を調和させながら「誰一人取り残さない社会」を目指すものです。

⑤ 社会情勢に応じた柔軟な対応

新型コロナウイルスの感染拡大は世界中に多大な影響を及ぼし、移動制限による公共交通事業や観光産業、飲食店等の地域産業への打撃に留まらず、市民生活に大きな変化をもたらしました。

国は感染症の拡大防止のため、「新しい生活様式」を提唱しているところであり、今後感染拡大が収束した場合にも、市民意識や価値観、経済活動等に大きな変化をもたらすであろうと言われています。

本市としても新型コロナウイルスで受けた影響を克服していくとともに、今後新たに不測の事態が生じた際にも「魅力にあふれ、活力ある経済活動の中で安心して暮らせるまち」の実現を図るため、社会情勢や市民生活を取り巻く状況の変化に応じて、柔軟かつ効果的に施策を実行していきます。

2.重点プロジェクト

- (1) 「COOL JAPAN FOREST 構想」の推進
- (2) 「産業用地創出」による産業振興
- (3) 「所沢駅周辺」の開発とまちの活性化
- (4) 「水とみどりがつくるネットワーク計画」の推進



クール ジャパン フォレスト
(1)「COOL JAPAN FOREST構想」の推進

① 概要

「COOL JAPAN FOREST 構想」は、本市と株式会社 KADOKAWA が、共同プロジェクトとして取り組んでいる、文化と自然が共生した、誰もが「住んでみたい」「訪れてみたい」地域づくりを進める構想です。この構想では、民間企業が拠点施設の建設・運営を、行政が周辺環境の整備等を担い、さらに産官共同で事業を展開することで、産業振興や地域の魅力創出につなげていきます。

第1期所沢市総合戦略の計画期間中である令和2年11月に「COOL JAPAN FOREST 構想」の拠点施設である「ところざわサクラタウン」がグランドオープンし、本市としては東所沢駅から「ところざわサクラタウン」への動線等の周辺環境を整備しました。

第2期所沢市総合戦略期間中では、「ところざわサクラタウン」からクールジャパンを世界に発信すること等によって、「COOL JAPAN FOREST」でのブランド力向上及び産業振興等を図り、市域全体での都市ブランドの構築や活性化に繋げ、「豊かなみどり」「人々のにぎわい」「元気な産業」が同居する「みどり・文化・産業が調和したまち」を目指します。

② 令和7年度までの具体的な取組

- ・ところざわサクラタウンを中心にした地域一体的なエリア構築（東所沢駅周辺、所沢市観光情報・物産館「YOT-TOKO」、東所沢公園等）
- ・県や周辺自治体と連携した観光・文化事業等の実施
- ・観光コースの設定等による国内外観光客の受入れ体制の整備
- ・観光客をターゲットにした観光物産品の開発（狭山茶などの特産品を活かす）
- ・市内各スポットとの連動性を高め「埼玉ダイレクト」を実現する交通アクセスの構築
- ・重点推進エリア「COOL JAPAN FOREST」への先端産業の誘致
- ・構想の浸透を図るための啓発及び情報発信（各種メディアの活用）

③ 効果

「ところざわサクラタウン」等の文化機能が「地域文化を醸成」し、その魅力を「国内外に発信」することで所沢ブランドの浸透とブランド力向上につながります。それらのまちの魅力と産業振興・雇用創出による「地域産業の活性化」との相乗効果により、所沢の潜在能力を活かしながら新たな可能性を引き出します。さらに、みどり・文化・産業が一体となった他には類を見ない空間が、市民をはじめ、国内外から多くの人を呼び込み、市民生活の潤いと豊かさ、まちの楽しさ、活気、新鮮な驚きを生み出します。

魅力	元気
<ul style="list-style-type: none"> ● ブランドイメージ向上 ● 市民が誇りに感じるエリア創出 	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域来訪者による地域経済活性化 ● 地域経済活性化による雇用創出

ところざわサクラタウン

～構想の拠点となるクールジャパン*の総本山～

「ところざわサクラタウン」は、みどり豊かな地から最先端の文化と産業を生み出し、世界に向けて発信する「COOL JAPAN FOREST 構想」の拠点施設です。日本最大級のポップカルチャーの発信拠点として令和2年11月6日にグランドオープンして以来、様々なメディアで話題となり、多くの方が訪れ、大きなにぎわいを見せています。



【主な施設】

- ・ポップカルチャーを含む図書館・美術館・博物館が融合した「角川武蔵野ミュージアム」
- ・多目的イベントホール「ジャパンパビリオン」
- ・アニメやマンガ等の世界で過ごせる「EJ アニメホテル」
- ・大型野外オープンスペース「千人テラス」
- ・約1,000人がワンフロアで働くKADOKAWAの新オフィス
- ・最新鋭のデジタル書籍製造設備を備えた「書籍製造・物流工場」
- ・地元産食材を豊富に使った「角川食堂」
- ・レストラン、カフェ、書店「ダ・ヴィンチストア」、埼玉の魅力発信「LOVE 埼玉パーク」など

今後は令和2年（ところざわサクラタウン完成後）から令和7年を「成果創出期」、令和8年以降を「未来への飛翔期」として、株式会社KADOKAWAと共に「COOL JAPAN FOREST 構想」を推進していきます。



ところざわサクラタウン



ジャパンパビリオン



角川武蔵野ミュージアム内「エディットタウン」



東所沢公園内
「チームラボ どんぐりの森の呼応する生命」

*クールジャパン…日本独自の文化が海外で評価を受けている現象、またはその日本文化を指す言葉。

(2)「産業用地創出」による産業振興

① 概要

令和2年3月に「所沢市都市計画マスタープラン*」を策定し、「三ヶ島工業団地周辺地区」、「関越自動車道所沢インターチェンジ（以下「IC」）周辺地区」、「松郷工業団地周辺地区」の3地区について、産業系の土地利用をより一層推進するため、土地利用推進エリアに位置付け、現在は「三ヶ島工業団地周辺地区」を優先的に取り組んでいます。

「三ヶ島工業団地周辺地区」では、組合土地区画整理事業*による市街化区域編入を目指し、地権者による設立準備会が結成され、より具体的な検討を進めています。本市では都市計画変更手続きに向けて、関係機関との協議に取り組むとともに、環境影響評価の調査などを実施しています。これにより、市外事業者の転入はもとより、市内事業者の拡大・発展につながる用地のニーズに応え、高速道路や鉄道への優れたアクセス性といった地域の特性に応じた多様な産業と雇用を創出します。

なお、「関越自動車道所沢IC周辺地区」、「松郷工業団地周辺地区」の2地区についても、「三ヶ島工業団地周辺地区」の事業完了後、産業系土地利用に向けて速やかに取り組めるよう検討を進めます。

② 令和7年度までの具体的な取組

- ・土地利用推進エリアの特性に応じた事業計画とするための関係者との協議
- ・事業計画の立案に向けた地権者の合意形成
- ・必要に応じた都市計画変更手続きの実施
- ・企業誘致に向けた産業用地情報の効果的な発信や立地相談
- ・企業立地支援奨励金制度の活用による支援

③ 効果

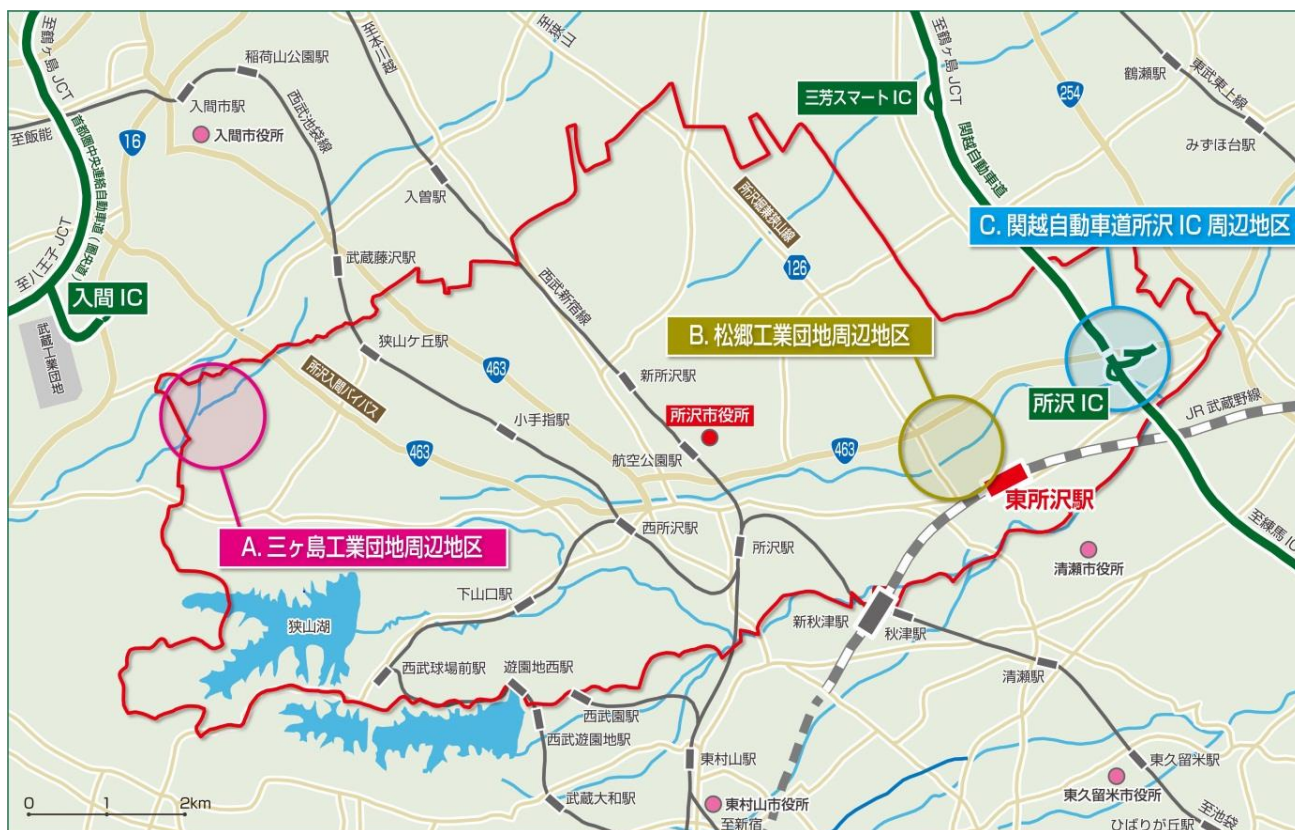
土地利用推進エリアとして掲げている「三ヶ島工業団地周辺地区」、「関越自動車道所沢IC周辺地区」、「松郷工業団地周辺地区」を新たな産業用地とすることで、地域経済の活性化を促進するとともに、市域全体の経済活動の活発化や雇用を生み出すことができます。

魅力	元気
<ul style="list-style-type: none"> ● 近くで働きやすい街づくり 	<ul style="list-style-type: none"> ● 新たな拠点づくりによる産業活性化 ● 雇用創出

* 所沢市都市計画マスタープラン…長期的な視点から街の将来像の実現に向けて、街づくりを進めていくことを目的とした、都市計画における基本的な方針。

* 土地区画整理事業…土地区画整理法に基づき、公共施設の整備改善と宅地の利用増進を図るため、土地の分合（換地）により道路、公園などの公共施設を整備するとともに土地の区画形質を変更する事業。

【産業導入を想定する「土地利用推進エリア」位置図】



出典：所沢市の工業団地等産業拠点創出と立地意向に関する調査（平成26年12月）の添付資料

A:三ヶ島工業団地周辺地区	B:松郷工業団地周辺地区	C:関越自動車道所沢 IC 周辺地区
<p>■位置、特徴 市街地内の住工混在*の解消を目的として2001年に環境事業団により整備された「三ヶ島工業団地」周辺の地区。圏央道入間 IC、国道16号に近接し、住宅地から離れた平坦な農地に広がる。武蔵工業団地（入間市）も至近。</p> <p>■交通アクセス ○圏央道 入間 IC まで車で5分 ○国道16号まで車で3分 ○国道463号バイパスまで車で3分 ○西武池袋線 狭山ヶ丘駅まで車で10分</p>	<p>■位置、特徴 1980年代の前半に区画整理事業により整備された市内唯一の工業専用地域「松郷工業団地」周辺の地区。国道463号、県道練馬所沢線、区画整理事業により整備された住宅地・商業地と近接する。</p> <p>■交通アクセス ○関越自動車道 所沢 IC まで車で7分 ○JR 武蔵野線 東所沢駅まで徒歩10分</p>	<p>■位置、特徴 市東端に位置し、関越自動車道所沢 IC、国道463号、国道254号の広域幹線道路が交差する地区。所沢 IC 周辺は、卸売市場、民間物流センター等の物流系施設が多く立地している。</p> <p>■交通アクセス ○関越自動車道 練馬 IC まで車で6分 ○外環道 大泉 JCT まで車で5分 ○圏央道 鶴ヶ島 JCT まで車で12分 ○国道254号まで車で2分</p>

* 住工混在…住宅と工場などが混在していること。

(3)「所沢駅周辺」の開発とまちの活性化

① 概要

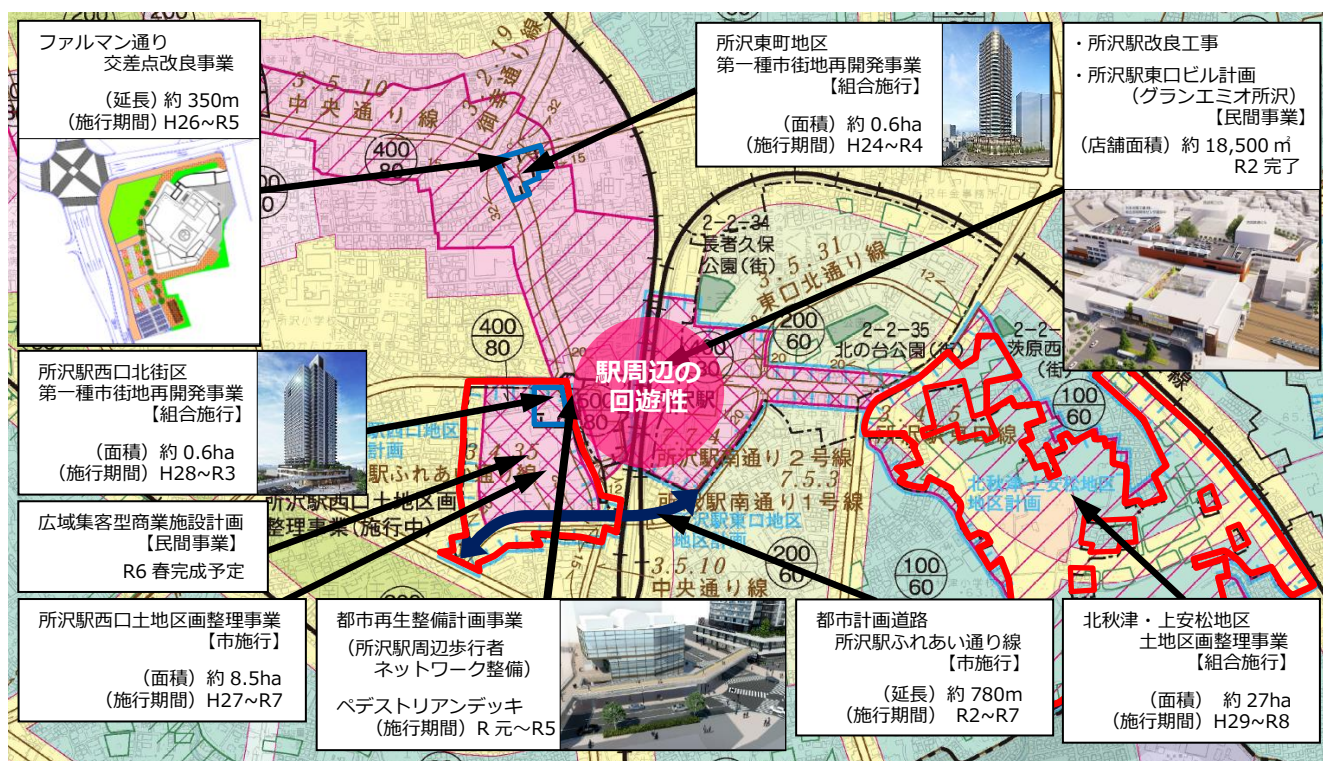
本市の表玄関である所沢駅周辺におけるにぎわいと魅力あるまちの形成を目指します。

駅西口では土地区画整理事業と市街地再開発事業*の一体的施行、駅東口では既存のまとまりのある貴重なみどりの保全に配慮した土地区画整理事業により、計画的な都市基盤の整備や土地利用の誘導による街づくりを進めています。

また、駅周辺における回遊性を高める歩行者ネットワークの整備や、市街地の一体化を図る都市計画道路所沢駅ふれあい通り線の整備を推進します。さらに、所沢東町地区における市街地再開発事業により拡幅整備される都市計画道路中央通り線の歩道空間を活用した、「人中心の居心地が良く歩きたくなるまちなか」を形成し、ウォーカブルなまちづくり*を推進します。

② 令和7年度までの具体的な取組

- ・土地区画整理事業（所沢駅西口地区、北秋津・上安松地区）の推進
- ・所沢東町地区第一種市街地再開発事業の推進
- ・都市計画道路（所沢駅ふれあい通り線、中央通り線）の整備
- ・歩行者ネットワークの整備による回遊性の創出
- ・居心地が良く歩きたくなるまちなかの形成



*市街地再開発事業…市街地の土地の合理的かつ健全な高度利用と都市機能の更新とを図るため、都市再開法に基づいて、建築物及び建築敷地並びに公共施設を整備する事業。

*ウォーカブルなまちづくり…都市の魅力を向上させ、まちなかのにぎわいを創出するため、車中心から人中心の空間に転換し、街路の広場化や公共空間の利活用など、歩きやすい空間づくりに向けたまちづくりをすること。

③ 効果

所沢駅を中心とした地区における商業の活性化や企業の集積により、市内外からの人の流れが創出され、周辺地域のにぎわいと魅力ある街づくりにつながります。

また、都市基盤の整備や歩行者の回遊性を高めることで、中心市街地活性化や音楽のあるまちづくり*などの取組と併せて、広域集客型商業施設と駅の往復だけでなく、駅周辺を楽しめる、人中心の「居心地が良く歩きたくなるまちなか」を形成することができます。

魅力	元気
<ul style="list-style-type: none"> ●にぎわいと魅力ある街づくり ●駅周辺のウォーカブルなまちづくり 	<ul style="list-style-type: none"> ●新たな拠点による地域経済の活性化 ●企業の進出などによる雇用の創出



* 音楽のあるまちづくり…音楽好きなまち・所沢をアピールして、あらゆる世代の市民や市内を訪れる方々に、うるおいと安らぎを与え、音楽でまちが元気になるよう盛り上げていこうとするプロジェクト。

(4)「水とみどりがつくるネットワーク計画」の推進

① 概要

令和2年6月に「所沢市水とみどりがつくるネットワーク計画」(以下「ネットワーク計画」という。)を策定しました。ネットワーク計画は、本市の水とみどりと都市のにぎわいを結ぶ散策路を設定し、「人を中心にしたまちづくり」の実現を目指すものです。

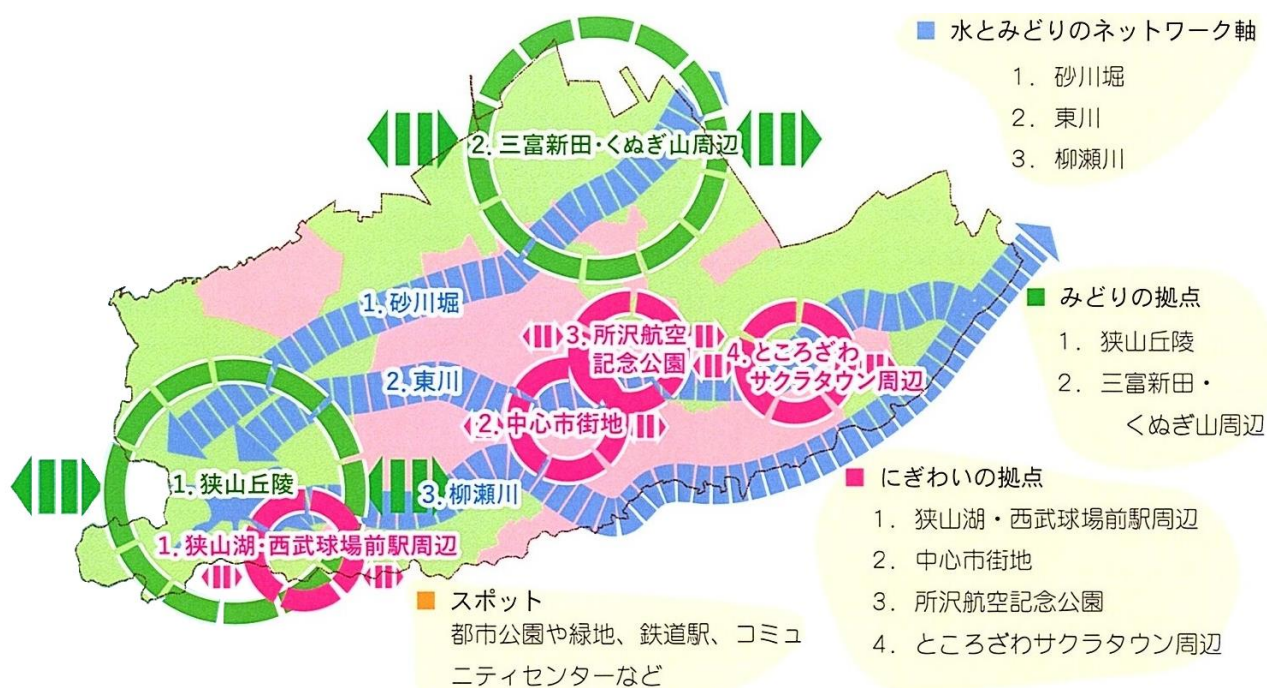
ネットワーク計画にひもづけられた関連事業を「みどりトコトコ・プロジェクト」と呼び、相互に連携しながら、水とみどりがつくるネットワークを構築します。

計画を推進するため、みどりトコトコ・プロジェクト会議*を設置し、事業の進捗状況や将来像を確認しながら、計画の継続性・実効性を確保します。整備が進む西武ドーム周辺エリア、中心市街地、「ところざわサクラタウン」といった市内拠点の運動性を意識した魅力発信を検討します。

また、河川や緑地でつながる本市、飯能市、狭山市、入間市、日高市による埼玉県西部地域まちづくり協議会の5市による、地域全体での魅力向上・発信に関する検討に合わせ、周辺自治体、鉄道路線の沿線各自自治体とのツーリズム構築など、さらに広域的なエリア(都市圏)や観光動線の視点から関係自治体等との協議・検討を進めます。

【水とみどりがつくるネットワーク構築イメージ】

本市の貴重な水辺やみどり、多くの人が集まる空間を、「水とみどりがつくるネットワーク軸」、「みどりの拠点」、「にぎわいの拠点」、「スポット」に位置付け、それぞれの特性に応じた取り組みを進めます。



*みどりトコトコ・プロジェクト会議…関係各課で組織する調整会議。

② 令和7年度までの具体的な取組

- ・里山保全地域や市民の森などのみどりの保全
- ・狭山丘陵の魅力の発展・向上などのにぎわい創出
- ・水辺の保全や散策路整備など、みどりとのにぎわいをつなぐ
- ・みどりを楽しく散策する仕組みの構築
- ・みどりの魅力の効果的な発信

③ 効果

所沢市の魅力となる水とみどりを COOL JAPAN FOREST 構想や中心市街地の活性化など、にぎわいある都市づくりと連携させ、歩きたくなるウォーカブルなまちづくりを推進します。

そして、人々が地域のみどり・歴史・文化に触れ、感じることで、新たな人の流れが生み出され、その相乗効果として、地域産業の活性化や文化の広域的な交流、所沢ブランド向上等の原動力となります。

魅力	元気
<ul style="list-style-type: none"> ●周辺地域も含めた魅力・イメージの向上 ●歩きたくなるウォーカブルなまちづくり 	<ul style="list-style-type: none"> ●新たな人の流れによる産業活性化 ●広域的な交流推進



3.戦略方針



魅力	(1)まちの魅力をUP	その1 まちの魅力をさらに高める その2 まちの魅力を発信する その3 まちに対して愛着や誇りを持ってもらう
元気	(2)産業の力をUP	その1 産業基盤を整備する その2 経営基盤を安定・強化する その3 雇用を創出し、就労支援を充実する
安心	(3)みんなの安心をUP	その1 子どもの育ちへの支援を充実する その2 子どもが幸せに過ごせる環境をつくる その3 子どもと“みんな”がつながる
	(4)暮らしやすさをUP	その1 地域の絆づくりを大切にする その2 快適な交通環境を提供する その3 保健医療体制を充実する

魅力

戦略方針 （1）まちの魅力をUP

✿ 基本目標 ✿

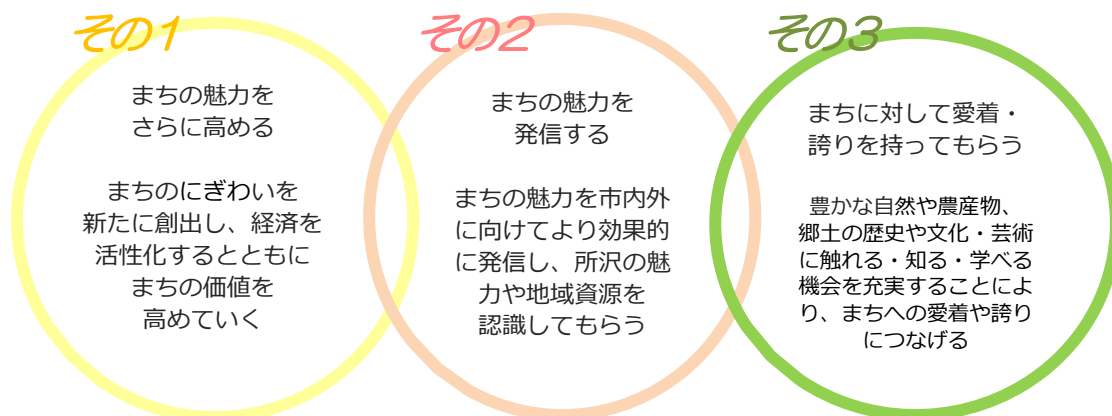
所沢市の魅力を高め、住み続けたいまち、訪れたいまちを目指します

本市は、都心から 30 kmに位置しているなかで、豊かなみどりや農産物に恵まれており、都会と田舎が程良く混在した地域です。

このような市域の特性や市が持つ資源を機能・調和・融合させて、「所沢ブランド*」による効果的な PR を進めながら、まちのにぎわいを創出し、経済の活性化を進めます。

また、人と自然と文化が調和したまちづくりを進め、人々が集い・憩い・安らぎを感じる住み続けたいまちを目指します。

戦略指標	内容	現状値	数値目標等（R7）
所沢への定住意向率	市民意識調査での回答率	79.6%（R元）	86%以上



*所沢ブランド…ブランドは他と比較して優れたものを意味する。多くの自治体が独自の施策や創意工夫を凝らした自治体運営を始める中で、「所沢らしさ」を市内・外へ発信すること。

(1) まちの魅力をUP

その1 まちの魅力をさらに高める

人々がふれあい、まちを散策し、余暇や買い物などを楽しめるまちづくりをすることで、にぎわいや景観の面から市の魅力を向上し、経済的な波及効果にもつなげていきます。

中心市街地や東所沢地域のにぎわいを創出する環境整備をはじめ、各種イベント等による「活気づくり」に力を入れるとともに、文化的なまちづくりといったコンセプトを持った魅力づくりを進めることで、本市のまちの魅力をさらに高めます。

所沢駅周辺のにぎわいを創出する

- 所沢駅周辺を整備し、鉄道路線により隔たりが生じている駅東西の一体化を促進する。
【所沢駅周辺のまちづくり】
・ 所沢駅西口地区(西武鉄道株式会社及び住友商事株式会社による広域集客型商業施設の建設計画)・日東地区
・ 所沢駅東西駅前地区
- 「居心地が良く歩きたくなるまちなか」の形成を進めていく。

中心市街地を元気にする

- 野老澤町造商店*による企画(展示やミニライブ等)を展開する。
- 旧市役所庁舎及び旧文化会館跡地の有効活用について検討する。
- 所沢ソラバル*やところざわまつり等のイベントを商工業者と連携して実施する。
- ファルマン通り交差点の改良整備を行い、交通処理能力と安全性の向上を図る。

COOL JAPAN FOREST 構想で輝く

- 株式会社 KADOKAWA との共同プロジェクトとして、推進会議 TEAM START 等での検討を進め、構想を推進する。
- 市民参加による事業や、教育機関等との連携促進を通じて、先進的な文化・教育エリアの構築を図る。
- ところざわサクラタウン周辺の継続的な魅力向上を進め、市域への観光リピーターを生み出す。
- 市内外の各スポットとの連動性を高め、にぎわいの創出と地域経済活性化を促進する。

多様なつながりで地域力向上

- 東京 2020 オリンピック・パラリンピックのレガシーを創出する。
- 埼玉県西部地域まちづくり協議会(ダイアプラン)について、構成市の連携・交流を深め、広域的な行政課題への取組を推進する。
- 市外とのツーリズムでは、飯能市のムーミンバレーパーク、小江戸川越などとの連動性を高め、県西部地域全体で遊び、泊まり、滞在することを目指し検討する。
- 貴重な水とみどりをまちの魅力とつなげていくことにより、新たな人の流れや文化の広域的な交流を進める。
- インバウンドも視野に入れた市全域の魅力向上を図る。

重要業績評価指標 (KPI)	内容	現状値	数値目標等 (R7)
所沢駅の 1日平均乗降客数	実績値	102,368人 (R元)	114,000人 (R6)
野老澤町造商店が開催するイベント参加人数	実績値	82,456人 (R元)	93,801人
東所沢駅の 1日平均乗者人員数	実績値	15,088人 (R元)	16,700人

*野老澤町造商店…所沢市中心市街地活性化拠点施設。所沢市の魅力を発信するためのイベントや展示を行う。
*所沢ソラバル…地域の美味しいお店をハシゴしながら、食べ歩き・飲み歩き・まち歩きをするイベント「街バル」の所沢版。所沢が航空発祥の地であることから「ソラバル」という名称にしている。

（1）まちの魅力をUP

その2 まちの魅力を発信する

本市の魅力を市内外のさまざまな人々に周知するためには、知ってもらいたい魅力やメッセージを効果的な媒体・方法によって伝えることが重要です。

豊かなみどりやプロスポーツなど、本市の魅力ある地域資源を広報ところざわや市ホームページはもとより、SNS やインフルエンサー、最新技術も含めた効果的な媒体の有効活用や、ロケーションサービス*などを通じて、市内外（海外含む）の多くの人々に向けて積極的に発信します。

**Twitter や Facebook、
動画配信サービスなどを活用する**

- 行政からのタイムリーな情報を Twitter や Facebook 等を使って情報発信し、各部署の公式アカウントをさらに充実する。
- 本市に関連するさまざまな動画等を YouTube 等の活用により発信する。

メディアを通じた PR を充実する

- 市内の観光スポット等におけるロケーションサービスを充実し、本市を PR する。
- 民間施設の取材に合わせて市の魅力を発信する機会を創出する。



交通広告等でアピールする

- 西武鉄道株式会社の駅や車両等におけるメディア媒体を活用し、インパクトの高いシティセールスを行う。
- 近隣自治体との連携による交通広告を活用する。
- バス等の車両ラッピング*を活用する。
- 発車メロディーや LED マンホールなど、国内外に注目される取組を推奨し、市の魅力を積極的に発信する。

重要業績評価指標（KPI）	内容	現状値	数値目標等（R7）
Facebook（広報課）の充実度	「いいね！」数 月ごとの積上値	1,485 人（R 元）	1,750 人以上
観光客数	観光入込客統計調査 の年間観光客数	5,973,445 人 （R 元）	7,800,000 人

*ロケーションサービス…撮影に伴うロケ地の相談や案内。公共施設撮影に関する許認可手続きの協力など、テレビ・映画等の撮影の誘致・協力・支援を行うサービス。

*車両ラッピング…バスや電車などの全面を、宣伝内容を印刷したフィルムなどで覆う広告形態。

(1) まちの魅力をUP

その3 まちに対して愛着や誇りを持ってもらう

首都近郊の住宅都市として高い利便性を有するとともに、狭山丘陵や武蔵野の雑木林などのふるさとのみどりが残され、自然と都市機能が調和した都市として発展していることが本市の大きな魅力となっています。

こうした市の財産を大切にしながら、人々が健康で心豊かな生活を営むことができるよう、所沢市まちごとエコタウン推進計画の基本理念を踏まえた「自然と共生する」まちづくりを進めるとともに、「人と人、人と自然との絆」につながる、みどりと歴史・文化・芸術等に触れる機会等を通して、本市への愛着や誇りを高めていきます。

みどり豊かな街並みで癒される

- 「みどりのパートナー」や「水辺のサポーター」制度や「ふるさとの川再生事業」で市民と協働してみどりのまちづくりを行う。
- 「里山保全地域」等の指定を進め、散策路やベンチを整備し、憩いや安らぎを提供する。
- 景観まちづくり(とことこガーデン、とことこ景観資源等)を推進する。
- 街中のみどりを保全・創出する。
- 地域住民のコミュニティや防災の拠点となる街区公園を計画的に配置する。

所沢の「美味しい」を広める

- 各種品評会の実施や農業祭の開催を通して所沢の農産物をPRする。
- 農産物の収穫体験等の参加型イベントを実施し、「所沢の農産物」の美味しさを体感してもらう。
- 市内の専門学校等と連携しながら所沢の農産物を活用した地産地消レシピを紹介する。
- ところざわ新茶まつりをはじめとするイベントやPR等により、所沢産狭山茶の消費拡大とブランド力を高める。
- 観光協会と連携し「うどんマップ」等をつくる。

歴史や文化・芸術を学ぶ

- 郷土の自然・歴史・文化等を楽しみながら学ぶ機会を増やし、まちへの誇りを高める。
- 伝統芸能や歴史文化を継承するため、展示・講座・体験学習会を開催する。
- 市民による学習活動やサークル活動を支援する。
- 航空発祥の地*をPRする。

みどり・文化・スポーツを楽しむ

- みどりあふれる所沢航空記念公園で、文化や市民とのふれあいにより、本市の魅力を発信するイベントを開催する。
- ミュージシャン等の若者文化の創造と発信を支援し、「音楽のあるまちづくり」を推進する。
- 本市を本拠地とするプロスポーツ「埼玉西武ライオンズ」や「さいたまブロンコス」を応援する機運を高める。
- 所沢カルチャーパーク*で、子供たちが楽しめる築山を整備し、身近な自然とふれあえる場とする。
- 市民が手軽にスポーツを楽しみ、健康長寿になることを支援する。
- 北中運動場をはじめとした既存体育施設の設備や敷地を有効に活用し、球技・武道等のスポーツ活動の支援・充実を図る。
- 文化芸術振興ビジョンを踏まえて、新たな郊外型文化芸術圏の実現を目指す。

重要業績評価指標 (KPI)	内容	現状値	数値目標等 (R7)
市の愛着度	市民意識調査での回答率	87.1% (R元)	90%
とことこ景観資源*の指定件数	実績値	194件 (R元)	218件
新たに確保するみどりの面積	地域制緑地の新規指定・拡大・指定替の総面積	86.16ha (R元)	101ha
都市公園の整備面積	新たに整備した公園の総面積	142.12ha (R元)	149.35ha以上
文化芸術・伝統文化に関する施策の満足度	市民意識調査での回答率	18.5% (R元)	46%

*航空発祥の地…1911年に日本初の飛行場が所沢に開設されたことにより日本の航空発祥の地と言われている。
 *所沢カルチャーパーク…樹林地の保全を図り、自然観察や散策により、身近な自然とふれあう場となる自然環境保全型の総合公園。
 *とことこ景観資源…所沢らしい良好な景観の要素となるものを、市民からの申請等により市が登録したもの。

元気

戦略方針 （2）産業の力をUP

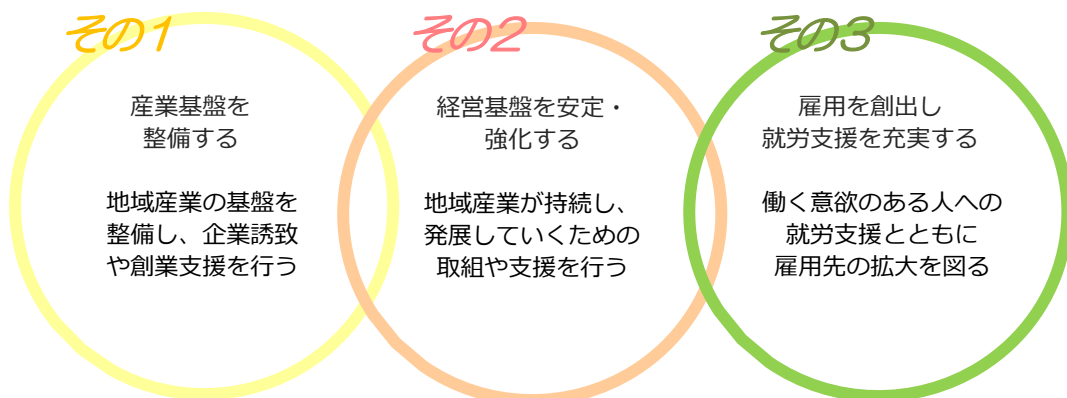
✳ 基本目標 ✳

産業や雇用を創出し、就業者数の増加を目指します

都市へのアクセスがしやすい本市は、首都近郊都市として発展してきた一方で、世界に名だたる工業製品を生産する企業も存在しています。

地域の活力の基礎となる、そのような個性豊かで競争力のある企業の発展を支援するとともに、地域で安心して働くことのできる、仕事と家庭の両立がしやすい環境づくりを行います。

戦略指標	内容	現状値	数値目標等（R7）
昼間人口比率*	国勢調査での昼間人口比率	86.1%（H27）	90.0%
製造品出荷額	工業統計調査での年間出荷額	1,830億円（H29）	2,000億円



* 昼間人口比率…夜間人口を100とした場合の昼間人口の割合

(2) 産業の力をUP

その1 産業基盤を整備する

さまざまな事業者が地域に根ざし、地域産業が活性化する基盤を築くためには、多様な主体が事業活動を円滑に推進できる環境を整備することが大切です。

農業従事者の高齢化や後継者不足により増加する遊休農地*の解消に向けた農地の流動化や、企業立地や事業拡張の需要に応えるための立地支援、農・商・工業事業の環境整備を推進します。

産業振興施策を推進する

- 平成30年1月に策定した産業振興ビジョンの基本理念である「活力ある産業と豊かなくらしの融合で まちの魅力を活かす ところざわ」を実現するために、「第6次所沢市総合計画」や関連計画との整合を図りながら、4つの「基本方針」に基づき、産業振興施策を総合的に推進していく。



企業の立地を支援する

- 産業系への土地利用推進エリアについて、土地利用の現況調査や、都市計画・農林等の関係機関との調整を進める。
- 工場等の新設、移転、拡張に対して、固定資産税、都市計画税相当額を3年間「企業立地支援奨励金」として交付する。
- 工場立地法に基づく地域準則条例の制定により、緑地面積率*等を緩和する。



合理的な土地利用を進める

- 地域経済活性化に資する土地利用推進エリアは、地域の特性を活かし、産業系を中心とした計画的かつ合理的な土地利用を目指す。
- 多様な市街地の特徴や動向に対応し、用途地域などを適切に見直す。また、市街地のみどりや農地の保全・利活用による自然と調和した土地利用を進める。
- 農地中間管理事業や農地サポート事業を活用し、農地の有効利用と流動化を推進するとともに遊休農地の解消を図る。

地域産業を生み出す

- 産業競争力強化法による認定を受けた創業支援事業計画に基づき、新たなビジネスに挑戦しようとする人を支援する。
- 開業ゼミナールや個別相談会等を所沢商工会議所と連携して開催する。
- 空き店舗出店費用補助や新商品開発費用補助、新規創業支援融資などにより資金面での支援を行う。
- 地場農産物等を活かした特産品の創出を支援する。

重要業績評価指標 (KPI)	内容	現状値	数値目標等 (R7)
農地サポート事業の実績	実績値	6.2ha (R元)	毎年度 2ha の流動化
製造業事業所数(従業者数4人以上の事業所)	工業統計調査での事業所数	253 (H30)	260

*遊休農地…現に耕作の目的に供されず、かつ、引き続き耕作の目的に供されないと見込まれる農地等のこと。
*緑地面積率…工場の敷地に占める緑地の割合。

(2) 産業の力をUP

その2 経営基盤を安定・強化する

事業者の経営基盤を強化し、経営改革が進められる環境整備を行うとともに、事業者が創意工夫をこらし、これまでにない革新的な経営を積極的に押し進めていけるよう、新たな需要の拡大や販路開拓、地域の特性や資源を活かした産業の育成支援を行います。

また、低利の融資のあっ旋や経営相談・経営セミナーを実施して中小企業の経営を支援するとともに、新規就農や法人の農業参入を支援します。

事業者を支援する

- 低利率の「中小企業融資制度」により資金面から経営を支援する。
- 事業発展を目指す事業者を支援するため、設備投資の融資（埼玉県・株式会社日本政策金融公庫）にかかる支払利子の一部を補給する。
- 市内事業者の経営向上に役立つメールマガジンを配信する。



商業経営者を応援する

- 大学や金融機関と連携し、市内の消費者の買物行動実態や満足度等を調査することで商業振興に役立てる。
- プレミアム付ところざわ商品券の発行等により、地域経済と商店街の活性化を図る。
- 新たな展望を切り開く市内商業経営者を育成するため、経営手法の開発、販路開拓、経営改善、商品開発その他商業の発展を目的とする調査等の研究活動費を支援する。

農業経営をサポートする

- 農業経営の法人化や農地所有適格法人等の規模拡大に対し、農地の賃借料の一部を補助する。
- 新規就農者に対して、農地の賃借や農業機械導入の一部を補助し、初期投資の費用負担軽減や経営の早期安定化を図る。
- 直売所や学校給食で地産地消*事業を推進する。
- 認定農業者*等の機械や施設の導入にかかる経費の一部を補助し、経営改善を支援する。



農・商・工業者が連携する

- 農商工連携による商品開発等を支援するため、新商品の開発や販路開拓等にかかる費用の一部を補助する。
- 農業者、飲食店業者、食品加工業者の情報交換・ビジネスマッチングの機会として「農商工連携のためのきっかけづくり交流会」を開催する。



重要業績評価指標 (KPI)	内容	現状値	数値目標等 (R7)
市内卸売業の年間商品販売額	商業統計調査 (5年毎統計)	4,628億円 (H28)	4,700億円

* 地産地消…その地域でつくられた農畜産物・水産物を、その地域で消費すること。また、その考え方や運動。

* 認定農業者…農業経営基盤強化促進法に基づく基本構想に示された農業経営の目標の達成に向けて、経営の改善を進めようとする計画の認定を受けた農業者のこと。

(2) 産業の力をUP

その3 雇用を創出し、就労支援を充実する

就労支援を必要としている人たちに対して、雇用情報の提供や就職面接会・就職支援セミナーなどを実施し、就職希望者が円滑に就業できるよう支援するとともに、市民の雇用の場の確保と安心して働くことのできる環境を整備します。

魅力的な雇用先の創出を進める

- 大規模事業所の進出による雇用の創出を図る。
- 産業系への土地利用推進エリアについて、土地利用の現況調査や、都市計画・農林等の関係機関との調整を進める。(再掲)
- 工場等の新設、移転、拡張に対して、固定資産税、都市計画税相当額を3年間「企業立地支援奨励金」として交付する。(再掲)



国や県等と連携して就労を支援する

- 国との連携事業として、就労チャレンジ支援事業により、就職面接会「就職応援フェア」の定期的実施や、生活困窮者を対象とした、ハローワークの就労支援員による職業相談や職業紹介などを行う。
- 埼玉県との連携事業として、「セカンドキャリアセンター所沢」事業により、就職支援セミナーや就職相談を実施し、女性・若者・中高年・シニア等の就職を支援する。

市民の雇用を促進する

- 工場等の立地又は特例子会社*の設立にあたり、新たに市民を雇用した場合に雇用促進奨励金*を交付する。その枠を超えて障害者を雇用した場合には追加の奨励金を交付する。
- 新たに障害者雇用に取り組む事業所を支援するため、施設改修にかかる費用や賃金の一部を補助する。

女性の就労につなげる

- 企業内保育を有する事業所等を周知する。
- 女性の就労に向け、埼玉県等と連携した事業や働きやすい職場づくりの実現のための講座を行う。
- 女性活躍推進法に関する情報提供を行う。



重要業績評価指標 (KPI)	内容	現状値	数値目標等 (R7)
市内事業所従業員数	経済センサスでの従業員数	114,847人 (H28)	116,100人
就職応援フェア若年者参加者数	実績値	101人 (R元)	80人
就労チャレンジ支援事業による就職者数	実績値	159人 (R元)	毎年度、新規就職者175人以上
若年層人口に占める転出数の割合	25~29歳人口に占める年間転出数	22.1% (R元)	10%

*特例子会社…障害者の雇用に特別な配慮と一定の要件を満たした上で、厚生労働大臣の認可を受けて、障害者雇用率の算定において親会社の一事業所と見なされる子会社。
*雇用促進奨励金…工場等の立地又は特例子会社の設立にあたり、新たに市民を雇用した場合に事業者に交付する奨励金。

安心

戦略方針 （3）みんなの安心をUP



✿ 基本目標 ✿

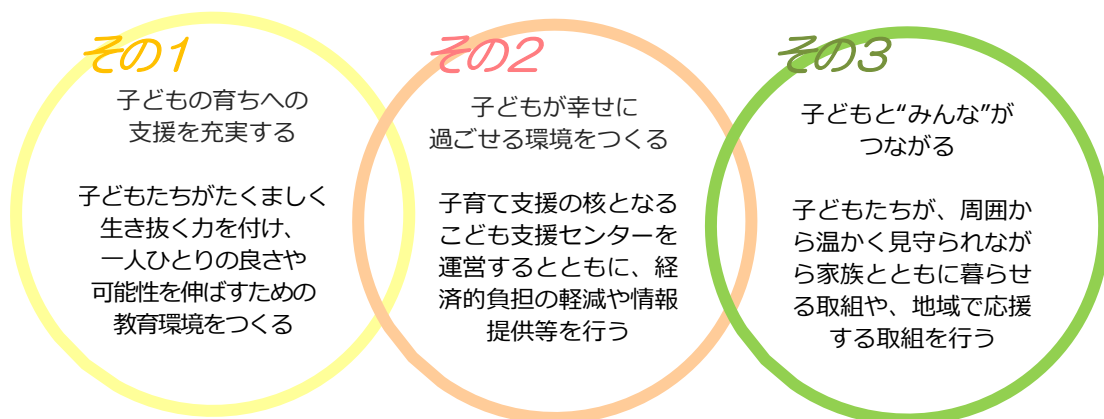
すべての子どもたちが尊重され、
たくましく健やかに成長できるような環境を整備します

核家族化の進行や地域のつながりが希薄化する中で、人への優しさや思いやり、家族の絆を深めることが必要です。

市の宝である子どもたちが健やかに育つために、子育てについての第一義的な責任を有する保護者が、安心して子育てができ、子育てに喜びや生きがいを感じることができる環境の整備を行うとともに、家庭・事業者・行政はもとより、すべての市民が「市の宝」である子どもたちの幸せを願い協力し合える、地域・社会全体の仕組みづくりに努めます。

そして、子どもたちが変化の激しい社会を生き抜くために、確かな学力と豊かな心、健やかな体を育成することができる教育環境を創り、「学ぶなら所沢」といわれるまちを目指します。

戦略指標	内容	現状値	数値目標等（R7）
30～40 歳代の 転出入均衡	人口動態統計に 基づく算定値 (転入数－転出数)	80 人（R 元）	0 人以上



戦略(3) その1

(3) みんなの安心をUP

その1 子どもの育ちへの支援を充実する

子どもたちが健やかに育ち変化の激しい社会に対応するためには、たくましく生き抜く力を育てることが必要になります。そのために乳幼児期における教育・保育、学齢期における学校教育や放課後対策を充実するとともに、学校・家庭・地域社会が連携し、確かな学力・豊かな心・健やかな体をバランスよく育成します。

また、大学等との連携や研修機会の充実、ICT 機器の効果的な活用等により、教育力の向上を図ります。

教育力を上げ、学力・体力を伸ばす

- 大学等と連携した先進的な研究や研修により、教師の専門性を高め、指導力を向上する。
- 「地域のちから」による学校のさまざまな教育活動のサポートに努める。
- 小・中学校に講師や支援員、学校司書等を配置し、きめ細かな支援を行う。
- プロスポーツや大学等と連携した運動教室を行う。
- 児童生徒体力向上推進委員会を支援する。

教育環境を充実する

- 小中高一貫などの特色ある私立学校を誘致し、市内の教育環境をさらに充実する。
- コンピュータやネットワーク等の教育環境整備を進め、ICT 機器の活用による情報教育を推進する。
- 不登校の児童生徒が、社会的自立を目指せるよう支援体制の充実を図る。
- 自然体験や職業体験、地域との関わりをもつ機会を増やし、教育機会の充実を図る。

幼稚園や保育園を充実する

- 所沢市子ども・子育て支援事業計画に基づき、幼稚園や保育園等の環境整備を進める。
- 保育園の園庭の芝生化を進めるとともに、実のなる木の植樹を行う。
- 市内の民間保育園などの保育士確保を支援するため、市独自の処遇改善補助金制度を設け、施設を通じて支給するほか、保育士募集の市ホームページへの掲載などさまざまな取組を行う。

児童の放課後対策を向上する

- 施設の老朽化と大規模化、狭あい化解消のため、学校施設の活用や、民設民営児童クラブの設置等を検討する。
- 小学生の放課後対策を効果的・効率的に行うため、放課後児童クラブと放課後子供教室の連携や放課後児童対策一体運営事業を進める。

重要業績評価指標 (KPI)	内容	現状値	数値目標等 (R7)
就学前児童の保育待機児童数	国の要領に基づき算出した待機児童数	14人 (R元)	0人
児童生徒の確かな学力の伸び	埼玉県学力・学習状況調査における学力レベルの伸び	2.0レベル (R元)	毎年度 2.0レベル以上
新体力テストにおける上位ランクの生徒の割合 (中学生)	新体力テストの総合評価が5段階中の上位3ランクの評価となった生徒の割合	87.3% (R元)	89.4%

(3) みんなの安心をUP

その2 子どもが幸せに過ごせる環境をつくる

地域の中で子どもたちが健やかに成長できるよう、子育てを支援する施設として「こども支援センター」を運営し、子育て中の親子の交流や子育て関連情報の提供をする他、育成や子どもの発達に関する相談や支援を行います。

また、経済的な面で不安を抱えている家庭への支援、妊産婦や子育て中の親が必要としている情報提供を充実することで、子どもが幸せに過ごせる環境づくりを進めます。

子育てをサポートする

- こども支援センターにおいて、4歳未満の親子が交流できるひろばの提供や相談を行う子育て支援事業と、発達障害等に関する相談と早期支援を行う発達支援事業が、それぞれの機能を活かし連携した支援を行う。
- 子育てコンシェルジュ* (ところっこ子育てサポート事業) を設置し、子育てに関する疑問などを気軽に相談できる環境をつくる。

経済的な不安を軽減する

- 多子世帯(第2子以降対象)や低所得世帯に対して、児童クラブ及び児童館生活クラブの利用料を減額・免除する。
- 子育てのための施設等利用給付費の支給、小・中学校の就学援助、高校生への奨学金の給付、高校・大学等の入学準備金の貸付を行う。
- 生活困窮家庭の子どもを対象とした学習支援教室を開催する。

HOTで切れ目のない情報を届ける

- ところっこ子育てガイドブックを作成し、本市が行っている妊娠・出産・子育ての支援制度などを紹介する。また、手軽に利用できるよう電子書籍版を作成し、利便性の向上を図る。
- 窓口や訪問の際は、あたたかく寄り添うコミュニケーションを行うとともに、広報紙、ほっとメール、市ホームページ、チラシ等様々な手段を活用し、必要な方へ、必要なときに、必要なことをしっかり届ける。

子どもが育つ環境に応じて必要な支援を行う

- 育児休業取得に伴い児童が一旦退園した場合にも、安心して育児休業を取得できるよう、保育園に再入園できるようにする。また、元の園からの声掛けや一時預かり事業*等で育児休業中の家庭をサポートする。
- 児童発達支援センター松原学園で、地域で暮らす障害児の家庭や関係機関への支援を行う。

重要業績評価指標 (KPI)	内容	現状値	数値目標等 (R7)
こども支援センター(子育て支援)の利用者数	実績値	83,629人(R元)	60,000人
こども支援センター(発達支援)の利用者数	実績値	25,083人(R元)	25,600人

*子育てコンシェルジュ…就学前の子どもの預け先に関する保護者の相談に応じ、認可保育所のほか、保育室や一時預かり事業、幼稚園預かり保育などの保育サービス等について情報提供をする窓口のこと。

*一時預かり事業…保護者の就労や病気・出産・冠婚葬祭等の緊急時に、家庭での保育が一時的に困難な場合に保育園で預かる事業。

(3) みんなの安心をUP

その3 子どもと“みんな”がつながる

子どもたちが、周囲から温かく見守られながら、家族とともに健やかにのびのびと暮らせるよう、まちぐるみで子どもの成長を見守るまちづくりの推進や、ワーク・ライフ・バランス*につながる取組を推奨するとともに、地域で子育てを応援する取組を進めます。

また、各家庭で、妊娠・出産・育児での不安を抱え込まずに過ごせるよう、高齢者をはじめとする地域のさまざまな人たちによる支援体制の充実等を図り、人との絆や地域とのつながりを築きながら、子育てに喜びや生きがいを感じることができると目指します。

子どもの成長をまちぐるみで見守る

- 子育て家庭が、地域で孤立せず安心して子育てできるよう絆の形成を行う。
- 三世代同居や近居の推進を図るとともに、多様な市民が子どもを中心に会い、交流し、共に支え合える関係を築くためのきっかけ作りを行う。
- 所沢の豊かな自然を生かした子育て環境の中で、家庭、地域、学校、市がともに関わり合い、それぞれの役割を担えるような関係作りを進める。



親子と一緒に過ごす時間を大切にする

- 「ところっこ親子で楽しむ運動あそび」を定期的に開催する。
- 手軽につくれる地産地消レシピや、農産物の収穫体験のイベントなど、親子で取り組めることを充実する。
- 市役所でのワーク・ライフ・バランスデーの取組を通して企業等での実施を勧奨するとともに、講演会等を通して仕事と家庭の両立への意識の浸透を図る。



出産・育児をサポートする

- 妊娠届出により、精神面・経済面に不安を持つ妊婦の把握や妊婦健診で疾病等を早期発見するため受診を促すなど支援体制の充実を図る。
- 妊娠期からの支援を継続し、産婦の健康管理や乳幼児の健全育成に対して保健指導などの支援を行う。
- 妊娠・出産・育児の悩みに寄り添った相談・情報提供を行う。

地域全体で子育てを応援する

- 地域の保育園や児童館にある「地域子育て支援センター」で、乳幼児と保護者の居場所を提供するとともに、仲間との会いにつなげる。
- ファミリー・サポート・センター事業において、育児の援助を受けたい人と援助を行いたい人を結びつけ、子育てにかかる地域での相互援助活動を行う。



重要業績評価指標 (KPI)	内容	現状値	数値目標等 (R7)
妊婦健康診査の受診率	実績値	94% (R元)	100%
地域子育て支援拠点施設の利用者数	実績値	248,614人 (R元)	260,000人

*ワーク・ライフ・バランス…仕事と生活の調和のことであり、一人ひとりが仕事や家庭生活、余暇、地域生活などをバランスよく行うことにより、人生の各段階において、豊かで充実した生活を無理なく送ることができること。

安心

戦略方針 （4）暮らしやすさをUP

✿ 基本目標 ✿

安心・安全で暮らしやすく、
市民に快適な生活を提供できるまちを目指します

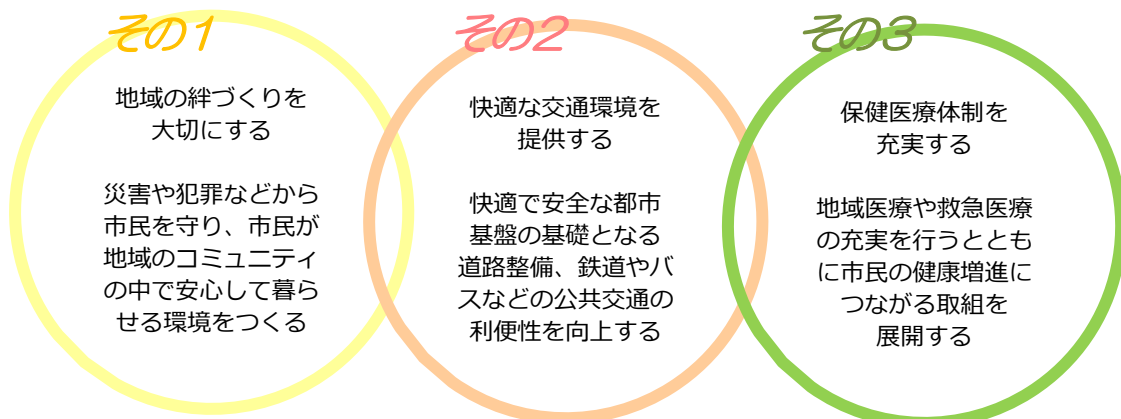
震災や異常気象といった被害により、地域の安全に対する意識が大きくなっているため、安心で安全なまちが求められています。

人と人が絆を紡ぎ、助け合いの心を育むことができるよう、コミュニティや住民活動を支援しながら、防災力・防犯力・地域力の強いまちを目指します。

また、人と環境に優しく、安全・円滑・効率的な道路・交通機能の確保と向上を目指すとともに、災害時にも、機能を維持できる重要インフラ整備や良好な住環境の形成を進め、市民の暮らしやすさの向上に努めます。

さらに、必要なときに必要な医療を受けられるよう、医療体制の充実を図ります。

戦略指標	内容	現状値	数値目標等（R7）
住宅・住環境に関する施策の満足度	市民意識調査での回答率	42.9%（R元）	69%以上
地域づくりに関する施策の満足度	市民意識調査での回答率	32.9%（R元）	62.5%以上



（4）暮らしやすさをUP

その1 地域の絆づくりを大切にする

地域課題の解決のためにさまざまな世代が活躍し、住民が主体的に行動することによって、人と人とのつながりを育み、地域団体等が連携・協力することができる環境を構築していく必要があります。

地域で人々が安心して日々の生活を送るために、市と地域が一体となって防災対策や自主防災組織の強化、防犯対策などを行います。

また、「自治会・町内会」への加入・参加の促進に加え、地域を担う人材の育成やコミュニティ活動の拠点整備といった市民の自主的・自立的なコミュニティ活動を支援します。

災害に備える

- 防災行政無線や全国瞬時警報システム*の運用、エリアメール*の配信など、災害時の情報伝達手段の拡充を図る。
- 防災備蓄倉庫の更新や備蓄品の充実、避難行動要支援者名簿作成などの災害対策を推進する。
- 昭和 56 年 5 月以前の建築物の耐震診断や改修費用を補助し、災害に強い住環境の整備を促進する。
- 災害時にも重要インフラ機能を確保できる整備を進める。

犯罪を抑える

- 防犯講座の開催や地域へのパトロール資機材の貸し出し、警察・防犯協会等各種関係団体との連携による街頭キャンペーン等を実施する。
- 広報ところざわ、市ホームページ、ところざわほっとメール等により防犯情報を発信する。
- 市民ボランティア「わんわんパトロール」の登録を増やすなど地域の犯罪抑止力を高める。



自主的なコミュニティ活動をバックアップする

- 地域づくり協議会の運営及び設立に関する更なる支援を行う。
- 自助・共助・公助が連携して地域の特性に合った避難行動支援の仕組みを構築する。
- 集団資源回収への支援を充実する。

人と人がつながるステージを充実する

- 市民活動支援システム「ところん Web」等により、多様な市民活動の機会を提供する。
- 集会所等の施設整備等に対する補助を行う。
- 年齢や障害の有無に関わらず、誰もが支え合いいきいきと生活できる環境を整える。
- 高齢者が培ってきた豊かな経験や知識、技術などを地域社会で発揮していく環境を整える。

重要業績評価指標（KPI）	内容	現状値	数値目標等（R7）
自主防災組織数	実績値	215 組織（R 元）	221 組織
犯罪発生件数	実績値	2,448 件（R 元）	2,203 件
地域づくり支援事業への地域住民の参加人数	実績値	130,995 人（R 元）	117,000 人
自治会等への加入世帯数	実績値	98,026 世帯（R 元）	98,500 世帯

*全国瞬時警報システム…消防庁からの発信された武力攻撃事態等に関する国民保護情報や、気象庁が発表する緊急地震速報などを、市の防災行政無線屋外スピーカーからサイレンと音声により放送するシステム。

*エリアメール…NTTドコモにより、気象庁が配信する緊急地震速報や、国・地方公共団体が発する災害・避難情報などを携帯電話に一斉に同報配信するもの。

（4）暮らしやすさをUP

その2 快適な交通環境を提供する

快適で住みやすいまちづくりの基礎となる部分には、安全な都市基盤となる広域的道路網、生活道路、自転車・歩行者空間の整備が重要であり、主要幹線道路網や、緊急車両の進入路となる生活道路の整備を図るとともに、ユニバーサルデザイン*に配慮した安心・安全な歩道の整備などを進め、交通渋滞の解消、出かけやすさの向上に努めます。

また、地域のニーズを踏まえた公共交通の利便性の向上に努めます。

地下鉄を誘致する

- 東所沢駅への都市高速鉄道12号線の延伸に向け、延伸促進協議会（新座市・清瀬市・所沢市・練馬区）による積極的な要望活動を行う。
- 東所沢地区のまちづくりを進め、都市高速鉄道12号線延伸促進の機運を高める。



道路計画を推進する

- 都市計画道路（北野下富線、松葉道北岩岡線、飯能所沢線等）の建設を進め、慢性的な渋滞を解消する。
- 歩道の整備や狭い道路の拡幅、交差点の改良を行い、安全を確保する。

公共交通の利便性を上げる

- 交通不便地域解消のため、三ヶ島地区をモデルケースとして、令和3年度からワゴン型車両による「ところワゴン」を導入する。
- 地域公共交通の利便性向上のため、バスやタクシー等の身近な交通手段について検討する。
- 西所沢駅の利便性向上と交通混雑緩和のため、西所沢駅西口改札口の早期開設を目指し、鉄道事業者と協議を行う。
- 鉄道の利便性向上のため、埼玉県や他の自治体と連携して、乗り入れなどの鉄道整備要望を行う。



重要業績評価指標（KPI）	内容	現状値	数値目標等（R7）
都市計画道路の整備状況	実績値	71.2%（R元）	73%
生活道路の整備推進	実績値 （令和元年度からの 整備済延長）	723m（R元）	4,000m（R6）

*ユニバーサルデザイン…「基本的人権の尊重」を基本理念として、障害の有無、年齢、性別、国籍、人種などにかかわらず、すべての人が心豊かに暮らせるような社会をつくっていくこととする考え方のこと。

(4) 暮らしやすさをUP

その3 保健医療体制を充実する

市民が病気にかかったときや急病時などの対応に不安を抱くことなく、日々の暮らしを安心して過ごすためには、日常的な地域の医療サービスが充実し、夜間・休日診療をはじめとする救急医療体制が確保されていることが不可欠です。そこで、医師会や保健所、所沢地区の3市で連携し、祝休日や夜間の救急医療体制の整備・充実を図るとともに、市民医療センターにおいては公立病院としてのその役割や機能を向上させます。

また、新型コロナウイルス感染症対策の経験を活かし、市民が心身ともに健康で安心して生活できるように、強靱な医療体制の確保、疾病予防や健康増進事業、各種相談事業、市民の理解や知識を高めるための周知・啓発事業などの充実を図ります。

必要な医療を提供する

- 市民医療センターが実施している小児急患診療を中心に、市内の関係医療機関と連携して市内全体における全ての時間帯での小児初期救急医療体制を確保する。
- 市民医療センターにおいて、地域の医療機関等と連携した患者の受け入れを行い、地域で継続性のある適正な医療を提供する。
- 所沢市市民医療センター再整備基本構想を策定し、公立病院としての担うべき役割や機能等について、市としての考え方や方向性を具体化する。
- 歯科診療所「あおぞら」で在宅要介護高齢者や障害児者の診療や休日緊急診療を行う。

救急医療体制を充実する

- 祝休日及び年末年始の救急診療について、医師会の協力を得て休日当番医を実施することにより、市民の初期救急医療体制を確保する。
- 所沢市、狭山市、入間市の3市で構成する所沢地区第2次救急医療圏について、県、医療機関及び3市の連携により、病院群輪番制による休日・夜間の重症救急患者の受け入れ態勢を充実する。

市民の健康づくりを支える

- 「トコトコ健幸マイレージ事業」の仕組み(歩くことを心がけるなど健康づくりへの取組にポイントを付与)を活用し、市民の健康づくりを応援し、健康寿命の延伸を図る。
- 「健康ガイドところざわ(がん検診申し込みはがき付)」を全戸配布し、各種予防接種やがん検診の受診を勧奨する。

悩みごとに対応する

- 保健センター「こころの健康支援室」にて精神保健福祉士が相談対応するとともに、精神科医による思春期こころの健康相談等を実施する。
- 生活上の困りごとや悩みごとについて人権擁護委員*と解決方法を考える「暮らしの中の悩みごと相談」を開催する。

重要業績評価指標 (KPI)	内容	現状値	数値目標等 (R7)
「第2次所沢市保健医療計画」の策定・推進	計画の進捗状況	策定 (R元)	推進
健康寿命の順位	埼玉県内の順位	男 4位 女 11位 (H30)	男 1位 女 1位
「トコトコ健幸マイレージ事業」の参加者の1日平均歩数 ※R元までは「トコロん健幸マイレージ事業」	実績値	8,071歩 (R元)	8,000歩
こころの健康講座等の参加者数	実績値	3,334人 (R元)	3,400人 (R6)

*人権擁護委員…地域の人々から人権相談を受け、問題解決の手伝いや法務局の職員と協力して人権侵害による被害者の救済を行う。

4.資料

■ 第1期所沢市総合戦略計画期間における人口分析



第1期所沢市総合戦略期間における人口分析

◀所沢市の人口に対する目標値▶

【所沢市人口ビジョン】

本市の人口ビジョンでは2060年（令和42年）の目標を以下のとおりとしています。

- ・生産年齢人口割合：50%の確保を目指す
- ・年少人口割合：回復を目指す
- ・人口：27万人の維持を目指す

本人口ビジョンを踏まえ策定した第1期所沢市総合戦略を推進していくことで、人口減少幅を抑えるとともに、生産年齢人口割合の50%の確保、年少人口割合の増加を目指すものです。

なお、「図1. 人口の将来推計」は人口ビジョン策定時の人口推計となり、「図2. 第1期所沢市総合戦略計画期間中の人口の将来推計」は、第1期所沢市総合戦略計画期間における人口推計となります。

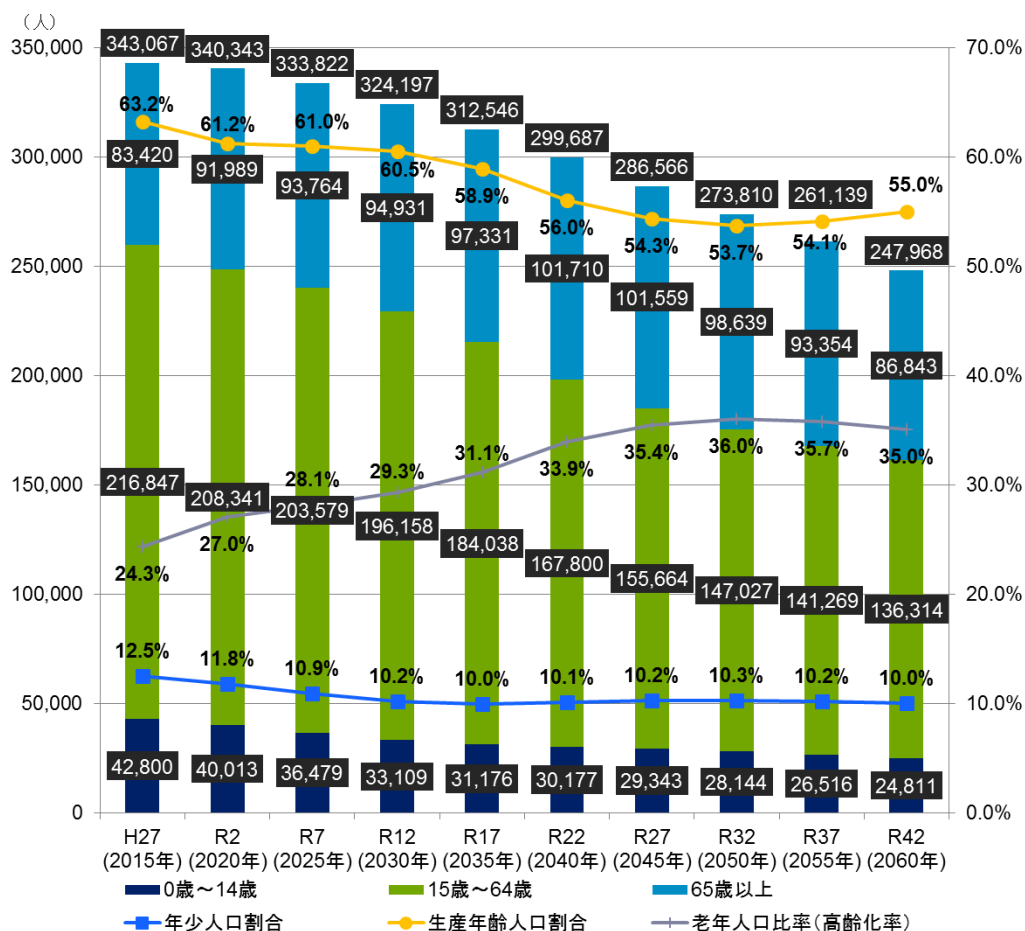


図1. 人口の将来推計

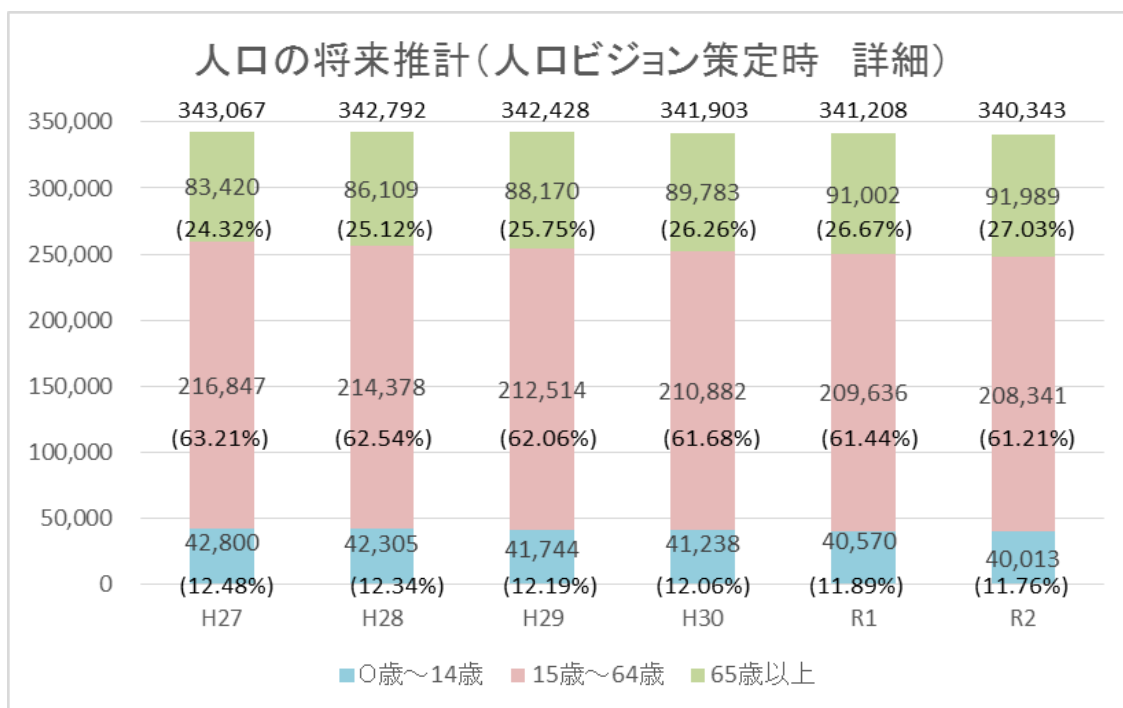


図2. 第1期所沢市総合戦略計画期間中の人口の将来推計

続いて、「図3. 人口の将来展望」は所沢市総合戦略に基づく施策等が効果的に実行された場合に想定される人口等の想定値となります。また「図4. 第1期所沢市総合戦略計画期間における人口の将来展望」は第1期所沢市総合戦略計画期間における本市の人口の将来展望となります。

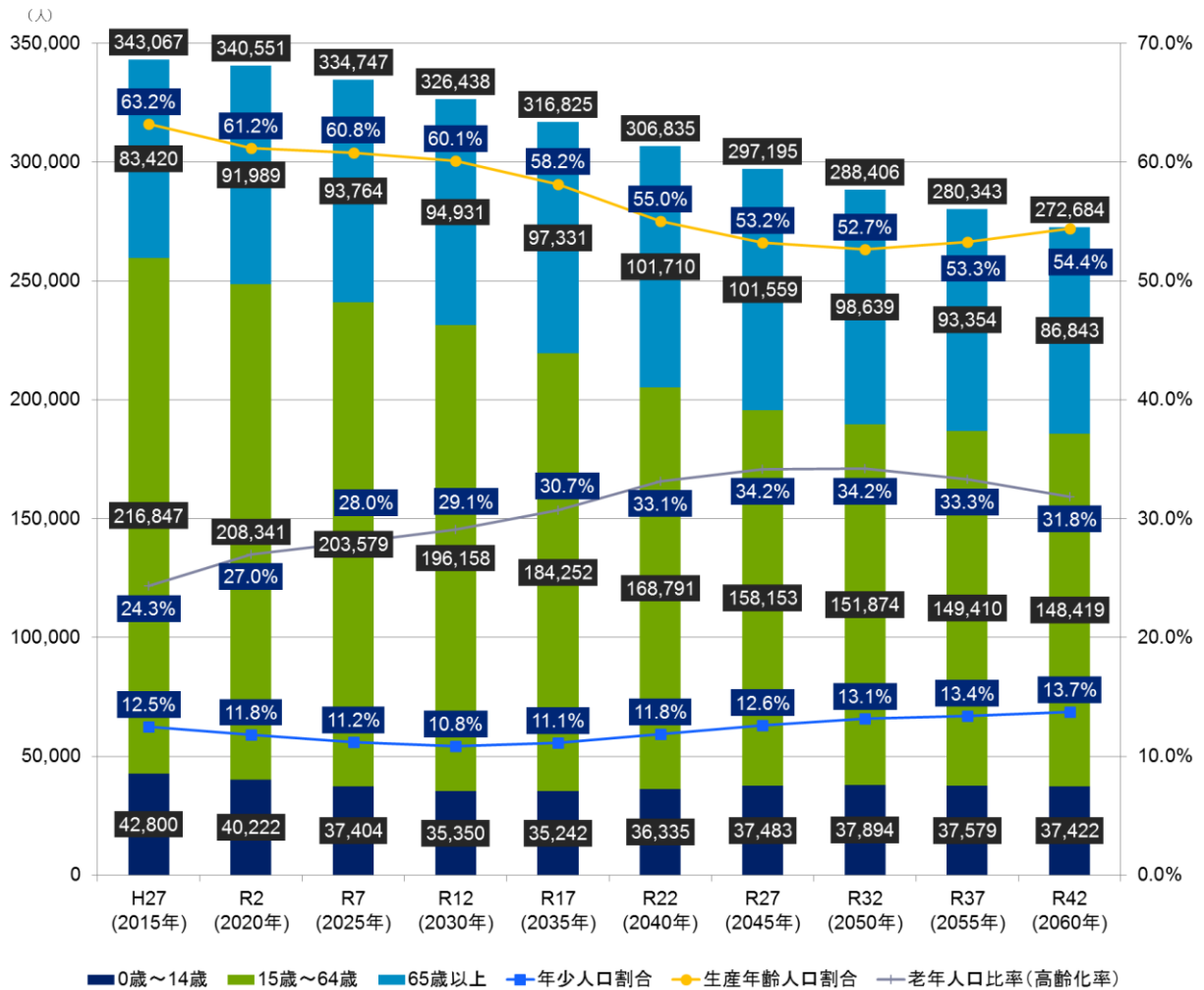


図 3. 人口の将来展望

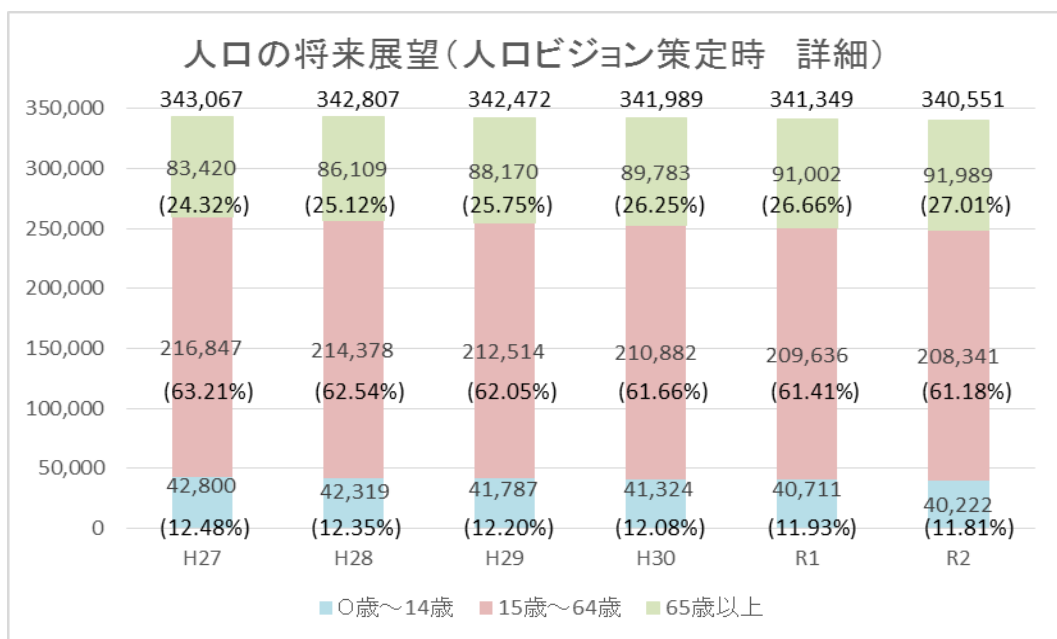


図 4. 第 1 期所沢市総合戦略計画期間における人口の将来展望

◀第1期所沢市総合戦略計画期間における人口の推移▶

【現状】

本市の人口は平成27年度以降も緩やかながら増加し、平成30年度に34万4千人を超え、その後は横ばい傾向にあります。

一方、年齢階層別の比率を比較すると、年少人口（0～14歳）、生産年齢人口（15～64歳）、は年々減少しており、老年人口（65歳以上）は増加しています。

令和2年度では、年少人口が11.62%、生産年齢人口が61.19%、老年人口が27.18%となっています。老年人口に注目すると、平成27年度ですでに24.91%と超高齢社会に陥っており、年々その比率が増加しています。

なお、「図5. 第1期所沢市総合戦略期間における人口の推移」は第1期所沢市総合戦略の計画期間における人口数及び各世代における人口割合の推移となります。

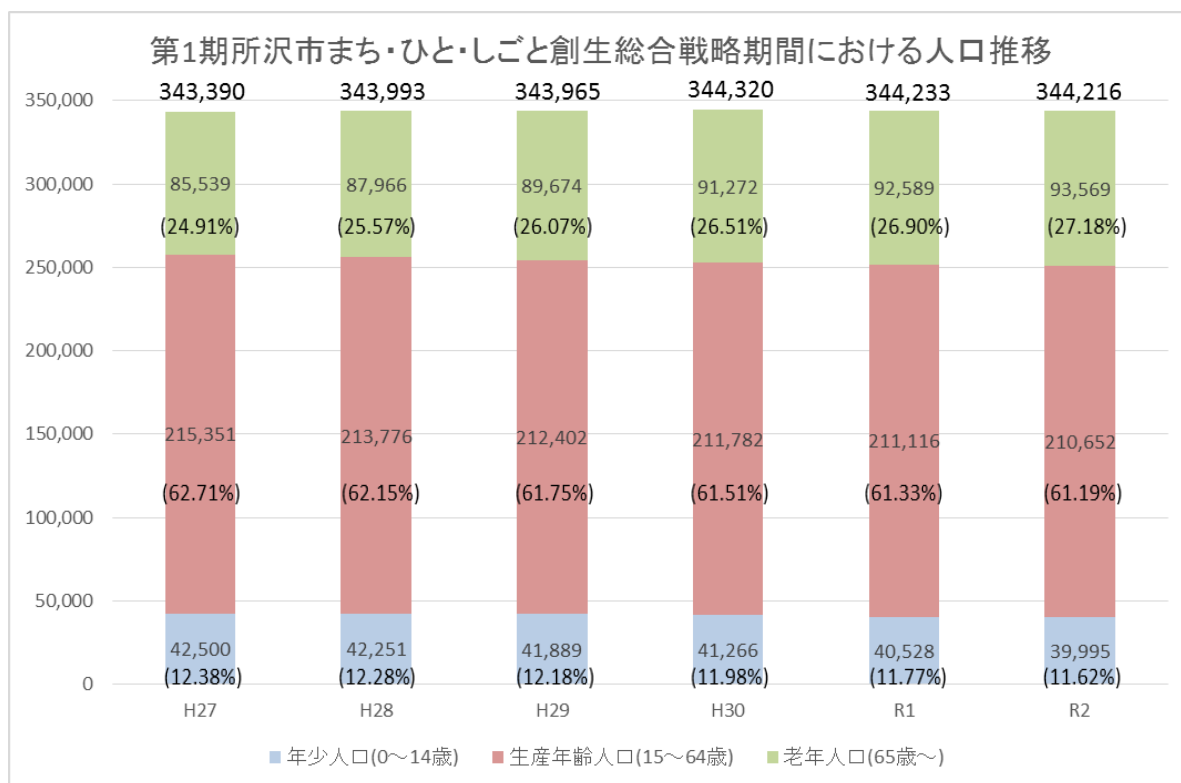


図5. 第1期所沢市総合戦略計画期間における人口の推移

【今後の方向性】

本市の総人口は令和2年度で 344,216 人（「図5. 第1期所沢市総合戦略期間における人口の推移」参照）であり、人口ビジョン策定時では同年度で 340,343 人（「図2. 第1期所沢市総合戦略計画期間中の人口の将来推計」参照）、目標値である将来展望では 340,551 人（「図4. 第1期所沢市総合戦略計画期間における人口の将来展望」参照）としていますことから、現状は目標値を大きく上回っています。これを世代別で見ますと、老年人口、生産年齢人口については目標値を上回っていますが、年少人口については令和2年度時点で 227 人（比率では 0.19 ポイント）下回っています。

年少人口が減少している理由の一つとしましては、合計特殊出生率の低下が考えられます。目標値では合計特殊出生率が一定の割合で上昇すると仮定されていますが、現状では上昇せず、令和元年度では 1.12 までに下がっています。

このことから、今後は合計特殊出生率をあげていくための取組を進めていく必要があります。

表 1. 合計特殊出生率

	H26	H27	H28	H29	H30	R1
合計特殊出生率	1.23	1.45	1.23	1.25	1.17	1.12

生産年齢人口については想定より増加しているため、所沢市総合戦略の推進については一定の効果があったものと考えられます。

一方、人口に対する生産年齢人口の割合に着目しますと、「図5. 第1期所沢市総合戦略期間における人口の推移」より、生産年齢人口は減少傾向にあります。割合では現状が 61.19%であり、人口の将来展望値である 61.18%とほぼ同等でありますことから、第1期所沢市総合戦略は順調に進みました。令和42年における生産年齢人口 50%を確保するため、引き続き若い世代をターゲットに取組を進めていく必要があります。

表紙に使用している写真は、全て所沢市内で撮影されたものです。



①三ヶ島ひまわり畑

②所沢駅周辺

③春の狭山湖

④ところざわまつり（金山町ほか）

⑤角川武蔵野ミュージアム内 本棚劇場（東所沢和田）

令和3年3月発行

発行 所 沢 市

企画・編集 経営企画部 経営企画課

〒359-8501 所沢市並木一丁目1番地の1

TEL : 04-2998-9027 / FAX : 04-2994-0706

E-mail : a9027@city.tokorozawa.lg.jp